

小児・AYA 世代がんサバイバーを対象とした、がん・生殖医療に関する経済負担に関する実態調査

北野 敦子 聖路加国際病院腫瘍内科 医幹

#### 研究要旨

妊孕性温存を目的とした胚（受精卵）凍結、未受精卵子凍結、卵巣組織凍結等の妊孕性温存療法は一部の自治体で助成制度が活用されていたものの、多くの患者は自費診療として受療してきた背景がある。経済的基盤が脆弱な AYA 世代がん患者においてがん治療費に加え、妊孕性温存にかかる費用は大きな経済的負担となっていることが予測される。また、妊孕性温存に要する時間についても心理的負担をきたしている可能性が予測された。

そこで本研究は、小児・AYA 世代がん患者のがん・生殖医療の受療実態および、がん・生殖医療に要する経済的負担の実態を明らかにすることを目的とし、がん種を問わず、がん診断時に生殖能力を有した、現在満 20 歳～満 60 歳の男女を対象とした Web アンケート調査を計画した。本研究は令和 3 年 2 月より調査を開始し、令和 3 年 8 月 31 日までを調査継続中である。

本研究を通して、がん・生殖医療の経済的負担の実状および、がん・生殖医療に関する更なる課題が明らかとなることが予想される。

#### 研究協力者

山谷佳子（聖マリアンナ医科大学 産婦人科学 臨床心理士/公認心理師/がん・生殖医療専門心理士）  
御船美絵（若年性乳がんサポートコミュニティ Pink Ring 代表）

#### A. 研究目的

本研究は小児・AYA 世代がん患者のがん・生殖医療の受療実態および、がん・生殖医療に要する経済的負担の実態を明らかにすることを目的としている。本研究によりがん・生殖医療の受療実態および経済的負担の実状が明らかになることで、今後の介入方法や支援の在り方を検討することが可能となる。

#### B. 研究方法

本研究はがん種を問わず、がん診断時に生殖能力を有した、現在満 20 歳～満 60 歳の男女を対象とし、がん・生殖医療の受療状況および経済的負担に関する Web 調査を行う。調査協力者に対して

は Web 上に掲載した研究説明文を読んでもらい、Web 上で同意取得を行い、調査に回答してもらう。

本研究は聖マリアンナ医科大学および聖路加国際病院の研究倫理審査委員会の承認（承認番号：5051）を得た上で、令和 3 年 2 月より調査を開始している。患者の同意取得は、医療機関としては上記の 2 つの病院を中心に行い、その他の方法として、患者会経由でも参加者を公募している。

#### C. 研究結果

本研究は令和 3 年 8 月 31 日までを調査期間としており、まだ報告可能な結果はない。調査終了後、速やかに結果を報告する予定である。

### 3. その他

なし。

#### D. 考察

本調査ではがん・生殖医療に対する経済的負担だけでなく、がん・生殖医療の受療に至るまでの意思決定に関する要因についても調査を行っている。また、がん・生殖医療を受けた患者に対しては、その後の転機（挙児の有無等）についても調査を行っている。500名からの回答を目標に現在調査を行っており、令和3年5月時点で300名以上より回答を得られている。本研究を通して、がん・生殖医療の経済的負担の実状および、がん・生殖医療に関する更なる課題が明らかとなることが予想され、今後の介入方法や支援の在り方を検討する上でも意義のある研究であると考えている。

#### E. 結論

本研究は令和3年2月より調査を開始し、令和3年8月31日までを調査継続中である。本研究を通して、がん・生殖医療の経済的負担の実状および、がん・生殖医療に関する更なる課題が明らかとなることが予想される。

#### F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

#### G. 研究発表

##### 1. 論文発表

調査終了後、速やかに論文報告を行う予定である。

##### 2. 学会発表

調査終了後、国内外の学会で発表予定である。

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

##### 1. 特許取得

該当せず。

##### 2. 実用新案登録

該当せず。